

(施策評価表69)

【施策番号IV-14-①-1】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦 略	【戦略14】熊本アカデミズム ～「知」の集積を「地」の活力につなげます～	主な施策	◆「知」を集める ～世界的な知の集積～
			①世界からの「知」の集積		

1 取組内容	2 主な事業 〔上段:H25事業 下段:H24事業〕	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>・ 高等教育コンソーシアム熊本と連携し、ポスドクなどの優秀な人材を世界中から募集し、熊本での活躍の舞台を提供することにより、“将来のノーベル賞候補者が集まる街”をめざした取組みを進めます。</p>	若手研究者による熊本型イノベーション創出事業	産業支援課	23,444 5,627	<p>・ 大学コンソーシアム熊本の高等教育機関の教育・研究の充実等に向けた取組みに対し、熊本県は特別会員として理事会及び企画・運営委員会に参画した。また、事業展開の充実・強化に向けた法人化の検討を進めた。</p> <p>・ 産業技術センターものづくり室（PHOENIX）に2名の研究者（非常勤研究員）を採用し、外部資金による産学官共同研究や県内企業等から依頼のカスタムメイド試験研究に関して、有機薄膜デバイスの試作や実証実験など研究員の補助を行うことにより、有機薄膜関連の研究開発の加速化に貢献した。</p>	<p>・ 大学コンソーシアム熊本への正会員としての参画を機に、今後の更なる連携や支援の在り方について検討する中で、「ポスドクなどの優秀な人材を世界中から募集し、熊本での活躍の舞台を提供する」取組みについての検討を進める。</p> <p>・ 今後成長が予測される有機エレクトロニクス、電気自動車、新素材開発などの研究分野において、地域産業の活力となる革新的なイノベーション促進のため、“ポスドク”などの優秀な研究員を産業技術センターに計3名採用し、高度な科学技術である「知」の集積を図る。</p>	<p>・ ポスドクなどの優秀な人材の受け皿の一つとなる可能性を有する大学との関わり方等について、大学コンソーシアム熊本と連携して、今後の方向性等を検討していく必要がある。</p> <p>・ 当該有機薄膜技術分野はその将来性から競争が激しく、本県の次世代産業として育成するためには、世界的開発競争に対抗できる技術水準と開発実用化のスピードの向上を図ることが必要不可欠となる。またそのための国プロジェクトなどの研究開発資金の確保および研究人材の確保が課題となる。</p>	<p>・ 県と大学コンソーシアム熊本の連携を強化し、県内の大学や企業による研究・開発の活性化を図ることで、優秀な人材が活躍できる環境整備を進める。</p> <p>・ 優秀な研究員を確保し、研究開発現場における迅速な対応を可能とすることで、最新技術分野に係る実用化を目的とした共同研究等に参画する企業数を増加させる。</p>
	<p>・ かつて細川藩が宮本武蔵を熊本に招へいたように、知の結集のシンボルとなる全国的な頭脳を熊本に招へいします。</p>	政策推進事業 (くまもと未来会議開催経費分)	企画課	3,560 2,223	<p>・ 知の結集のシンボルとして、H24.3に五百旗頭真氏（復興推進委員会委員長、前防衛大学校長）を熊本県立大学の理事長に迎えることができた。</p> <p>・ 「くまもと未来会議」に東京大学大学院の姜尚中教授や昭和女子大学の坂東真理子学長に加え、熊本県立大学の五百旗頭真理事長、東京大学の御厨貴客員教授、世界的な建築家の伊東豊雄氏等が新たに参画。さらに、テーマ「アジアとつながる」では、ポスコンコンサルティンググループの松島正之氏、東京外国語大学大学院の井尻秀憲教授や東京大学大学院の古城佳子教授等が参画したことで、知の結集が進んだ。</p>	<p>・ 既に招へいた知の結集のシンボルである五百旗頭氏などが、熊本の「知」と「文化」の顔として活躍できるように、今後、熊本の認知度向上のための発信の場を提供・確保するとともに、県政の課題の解決や県勢の発展のために研究が必要な分野を抽出し、その研究に必要な人材の招へいを進める。</p> <p>・ 知の集積のシンボルとなる委員による「くまもと未来会議」を引き続き開催するとともに、県民の方が委員の意見をより深く聞くことができるよう、新たにくまもと未来会議委員（元委員含む）等によるリレー講演を開催する。</p>	<p>・ 招へいた知の結集のシンボルが、ポスドクなどの優秀な人材の結集につながるような取組みを展開するとともに、新たなシンボルの招へいについて、どのような分野・人材が招へい可能か検討する必要がある。</p> <p>・ 「くまもと未来会議」でいただいたアイデアや意見を積極的に施策につなげることができるよう、新たなテーマやそのテーマに応じた委員の選任について検討する必要がある。また、同会議に、より多くの人々が参加できるように開催方法を検討する必要がある。</p>
主な施策のまとめ				<p>●産業技術センターものづくり室に研究者2名を採用し、有機薄膜関連の研究開発の加速化に貢献。</p> <p>●知の結集のシンボルとして、五百旗頭真氏を熊本県立大学の理事長に招へいするとともに、「くまもと未来会議」に新たな委員が参画。</p>	<p>●今後成長が予測される研究分野において、“ポスドク”等の優秀な研究員計3名を採用。</p> <p>●熊本の「知」と「文化」の顔である五百旗頭氏等の活動を発信する場の提供・確保、県政の課題の解決等につながる研究に必要な人材の招へい。</p> <p>●「くまもと未来会議」の開催及び同会議委員によるリレー講演の開催。</p>	<p>●優秀な人材の受け皿となりうる大学との関わり方についての方向性の検討。</p> <p>●新たなシンボルの招へいに関する分野・人材の検討。</p> <p>●「くまもと未来会議」の新たなテーマや委員の選任に関する検討。</p>	<p>●知の結集のシンボルとなる人材を招へいし、先駆的な研究・開発などの活性化、世界に飛躍する人材の育成を推進。</p> <p>●様々な知の結集のシンボルが熊本に集積し、様々な知が行き交い、新たな知が生まれる知の拠点となるよう推進。</p>